

はじめに

わたしたちの三島村は、鹿児島県薩摩半島の最南端・長崎鼻から南南西約40kmの海上にある三つの島、竹島・硫黄島・黒島から成り立っています。鹿児島市の南埠頭から村営定期船「みしま」に乗り、約3時間で最初にたどり着く竹島は、その名の通り全島を竹におおわれた緑あざやかな島。そこから30分ほどで着く硫黄島は、活火山の硫黄岳が煙を噴き、数々の伝説とロマンに彩られた島。さらに1時間10分ほどかけて最後に到着する黒島は、森林におおわれ「ミニ屋久島」ともいわれる島。

三者三様の表情を見せるこれらの島々には、貴重な独自の自然・文化・風習などが残されており、「三島村・鬼界カルデラジオパーク」や「みしま県立自然公園」に指定されています。

このように、三島村は豊かな大自然と特色ある伝統文化など、ユニークで個性的な魅力がいっぱい詰まった村なのです。

「三島村にはどんな未来が待っているのでしょうか」

過疎化や少子高齢化、高度情報化や地球規模での環境問題など時代が抱える悩みはこの小さな離島の村を直撃しています。

「この島々の貴重な価値を守りながら、わたしたちの生活を豊かにしていく」ことはきっと難しいことですが、みんなで知恵を出し合って、その答えを見つけていかなければなりません。そのためには「三島村がどんな村なのか、どんな厳しい問題を抱えているのか、そしてどんなに素晴らしい村なのか」自分たちで調べて、みんなで話し合い、気づいてほしいのです。

この本を通して、三島村の人々や自然、歴史や伝統文化と出会ってください。そして、自分が生きているこの村に誇りをもち、この村を愛し、この村の明るい未来を応援する人に成長してもらいたいと願っています。